

# バリアフリー代官山攻略ガイド

## ～車イス利用者や足の不自由な人が代官山観光を楽しむために～

國學院大學経済学部 2 年 後藤光、芝田圭汰、寺嶋健、沼田翔大、八木佑太、谷本和也

### 1. 調査の概要

#### 1.1 問題意識

代官山はファッションの街として若い世代を中心に知名度が高く、多くの人々が訪れる。2017 年 12 月 8 日には日本イコモス国内委員会によって旧朝倉家住宅とヒルサイドテラスが日本の 20 世紀遺産に選定された。これは日本国内における 20 世紀に建築・形成された文化的財を顕彰するために選定されたものである。加えて 2020 年にはオリンピックが東京で開催されることもあり、今後、代官山には今まで以上に多様な観光客が訪れることが予想される。

代官山はその名の通り、坂が多い。加えて道幅が狭い、人車が分離されていない道路が多い、段差が多いなど、高齢者や障害者にとってのバリアが数多く存在する。中でも、20 世紀遺産に選定された 2 つの施設は、旧朝倉邸は渋谷区の重要文化財であるため、ヒルサイドテラスは建築家槇文彦氏の設計を忠実に建築した建物であり、そのこと自体が価値になっているため、いずれも改修や改築が難しく、バリアを取り除くことは現実的ではない。だが、それでは障害のある人は排除されてしまう。

そこで、私達はバリアの除去ではなく、バリアが存在する（バリアフリー）環境の中で、車いす利用者が旧朝倉邸とヒルサイドテラスを安全に楽しむための方法という視点から調査を行うことにした。

予備調査の結果、旧朝倉邸は建物内に段差が多く、庭園にも多くの飛び石が配置されていることがわかった。したがって旧朝倉邸については車いすでの観光は難しいと判断し、提案はヒルサイドテラスに焦点を絞ることにした。



#### 1.2 調査の方法

現地調査は 2018 年 2 月と 3 月の計 2 回行った。まず、代官山駅構内と代官山から旧朝倉邸、ヒルサイドテラスへのルート、そして両施設のバリアフリー状況についての予備調査を実施した。主な点検項目は、入り口等の段差の大きさ、エントランスのドアの形状、道路や通路の幅、エレベーターや多機能トイレの有無である。この予備調査を通じて安全にアクセスするためのルートの選定や各施設のバリアの状況を確認した。その結果、車いす利用者にとって旧朝倉邸の見学は困難であることが明らかになった。

次に、予備調査の結果をもとに、介助者のいる車いす利用者を想定して実際に車いすを使った本調査を実施した。本調査では、道路の幅、道路と建物の段差、建物内部の通路や入り口、エレベーターの幅などについて車いすでも利用できるかどうかを確認した。加えて、店舗のご協力を得て実際に車いすで入店させていただき、ショッピングや見学がしやすいかどうかを調べた。



## 2. 結果の概要

### 2.1 調査の結果と提案

まず、代官山駅については、各ホームの幅が狭く、車いすでの移動は困難である。そのためエレベーター付近に停車する渋谷方面・横浜方面行きともに6号車3番ドアから降車し、中央口正面の車いすが通れるワイド改札機から出ることを推奨する。

続いて、代官山駅からヒルサイドテラスに移動する場合、道幅の狭い道路や段差、急な坂など車いすでの移動では不向きなルートが多数あった。現地調査の結果、図1に示したように、代官山駅からヒルサイドテラスへ移動するルートを提案する。

1つ目のルートは中央口から出たルートでヒルサイドテラスへの距離が短いですが、一部歩道と車道が分かれていない道路になっていて交通量の多いことから注意が必要である。もう1つのルートは西口から出て代官山アドレスを通るルートである。このルートは少し遠回りになるが、坂道が少なく、道幅も広く確保されている。また、横断歩道には車いす用の青延長押しボタンが設置してあるため、安全にヒルサイドテラスへ移動できるルートとなっている。

ヒルサイドテラスの敷地・建物内には多くのバリアが存在し、車いすでの移動は限られている。表1に示したように車いすでアクセス可能な建物は、B棟、C棟、F棟、G棟である。G棟はエレベーターが設置しており各階への移動が可能である。

ヒルサイドテラス内のトイレは、表2で示したようにB棟を除く全ての棟に設置してある。しかし、これらのトイレは多機能トイレではないため車いすでの利用には向いていない。そのため代官山蔦屋書店内にある多機能トイレを使用することを推奨する。ただし、急を要する場合は段差のないF棟、G棟のトイレを使用することが望ましい。



表1：車いすでの各棟アクセス

	A棟	B棟	C棟	D棟	E棟	F棟	G棟
3F	オフィス		オフィス	オフィス		オフィス	○
2F	×		×	×	オフィス		○
1F	×	○	○	×	オフィス	○	○
B1F		×		×		×	○
1階入口のドア	自動	開き戸	開き戸	開き戸	開き戸	自動	自動

○…アクセス可 ×…アクセス不可 ●…階段 ←…エレベーター

表2：トイレの有無

	A棟	B棟	C棟	D棟	E棟	F棟	G棟
設置状況	○ (1F)	×	○ (B1F)	○ (B1F)	オフィス	○ (1F)	○ (1F)
段差の有無	有	—	有	有	—	無	無

### 2.2 おわりに

現在、渋谷区ではバリアフリー基本構想の策定を進めており、既存の建築物についてもバリアフリー化の推進が望まれているが、現実にはさまざまな理由によってバリアフリー対応が難しい施設も少なくないと考えられる。だが、そういう施設においても、今回の提案のような適切な情報提供や周囲の人たちの手助けがあれば、車いす利用者の利用可能性を広げることができる。バリアフリー化の推進とあわせて、バリアフリー環境に対応するための一層の工夫も必要だと思われる。